

家庭礼拝ガイド 365 日－1 月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
1/1	Ⅱコリント 4:7	Ⅱコリント 4:7	土の器
1/2	Ⅱコリント 4:16	Ⅱコリント 4:16	内なる人は日々新たに
1/3	Ⅱコリント 5:17	Ⅱコリント 5:17	キリストのうちにあるなら
1/4	Ⅱコリント 5:20	Ⅱコリント 5:20	キリストの使節
1/5	Ⅱコリント 9:7～11	Ⅱコリント 9:7	喜んで与える人
1/6	Ⅱコリント 11:13～15	Ⅱコリント 11:15	サタンの変装
1/7	Ⅱコリント 12:9～10	Ⅱコリント 12:9	弱さのうちに現れる神の力
1/8	ガラテヤ 2:16	ガラテヤ 2:16	信仰義認
1/9	ガラテヤ 2:20	ガラテヤ 2:20	キリストが私のうちに生きておられる
1/10	ガラテヤ 3:26～29、4:6～7	ガラテヤ 3:26	神の子ども
1/11	ガラテヤ 5:22～23	ガラテヤ 5:22～23	御霊の実
1/12	ガラテヤ 6:7～10	ガラテヤ 6:9	善を行なうのに飽いてはいけません
1/13	エペソ 1:3～7	エペソ 1:4	世界の基の置かれる前から
1/14	エペソ 2:8	エペソ 2:8	恵みのゆえに信仰によって
1/15	エペソ 2:10	エペソ 2:10	私たちは神の作品
1/16	エペソ 2:14～19	エペソ 2:19	神の家族
1/17	エペソ 4:11～16	エペソ 4:16	教会の成長
1/18	エペソ 4:21～32	エペソ 4:24	神にかたどり造り出された新しい人
1/19	エペソ 5:8	エペソ 5:8	光の子どもらしく歩みなさい
1/20	エペソ 6:1～3	エペソ 6:1	主にあって両親に従いなさい
1/21	エペソ 6:10～18	エペソ 6:11	神の武具
1/22	ピリピ 2:3～6	ピリピ 2:3	人を自分よりすぐれた者と思いなさい
1/23	ピリピ 2:13～14	ピリピ 2:13	すべてのことをつぶやかず、疑わずに行いなさい
1/24	ピリピ 3:12～16	ピリピ 3:14	目標を目指して
1/25	ピリピ 3:17～21	ピリピ 3:20	私たちの国籍は天にあります
1/26	ピリピ 4:4	ピリピ 4:4	いつも主にあって喜びなさい
1/27	ピリピ 4:6～7	ピリピ 4:6	何も思い煩わないで
1/28	コロサイ 1:6	コロサイ 1:6	あなたに届いた福音
1/29	コロサイ 2:3	コロサイ 2:3	キリストのうちにある宝
1/30	コロサイ 2:12	コロサイ 2:12	バプテスマ
1/31	コロサイ 3:23	コロサイ 3:23	何をするにも、主に対してするように

1月1日

テーマ：「土の器」

聖書箇所：コリント人への手紙第二 4章 7節

◆今日のみことば

私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。

コリント人への手紙第二コリント 4章 7節

◆メッセージ

パウロさんはイエスさまのことを人々に伝える時に、たくさんの苦しみを受けてきました。イエスさまのことを伝えているという理由で、つかまえられてムチで打たれ、牢屋に入れられることも何度もありました。どんなに大変だったことでしょうか。パウロさんも私たちと同じ人間で疲れてしまい弱ってしまうこともありました。病気にもなりました。



パウロさんは今日のみことばの中で、私たちのことを「土の器」だと言っています。土の器はもろくて、落とすと簡単にくだいてしまいます。金や銀、ガラスの器のように見栄えもよくありません。ある人は土の器には価値がない、というかもしれません。でも、イエスさまを信じる私たちは、この土の器に宝を入れていて、と聖書は言います。宝とは何ですか？イエスさまの福音です。イエスさまを信じると罪がゆるされて、天国に行けるという素晴らしい知らせです。

私たちは弱く、力がないかもしれません。でも、宝であるイエスさまは土の器である私たちの中におられ、弱いたちをとおして輝くのです。土の器の私たちが神さまがいつも助けて、力をくださるのです。



◆お祈り

「神さま、弱い私たちを強めて、イエスさまの素晴らしさをあらわす土の器にしてください。」

(東岡山キリスト教会伝道師 中尾啓代)

1月2日

テーマ：「内なる人は日々新たに」

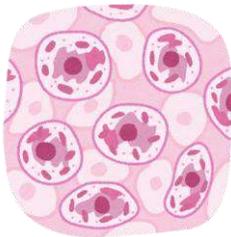
聖書箇所：コリント人への手紙第二4章16節

◆今日のみことば

ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。コリント人への手紙第二4章16節

◆メッセージ

「新陳代謝」という言葉を聞いたことがありますか？辞書には「新しいものが古いものにとってかわること」と説明されています。この新陳代謝は私たちの身近で毎日行われています。どこででしょう？それは、私たちの体で行われています。私たちの体は日々、古くなった細胞から新しい細胞へと作りかえられています。それもものすごいスピードで体の中の古い細胞を捨て去り、それ以上のスピードで新しい細胞を作り出して、体の細胞や組織が再生されているのです。どれくらいでしょう？その速さは一日で7,000億個です。全部で60兆個といわれる全身の細胞が3ヶ月で入れ替わるのです。胃腸はわずか5日で新しいものに作り替えられます。心臓は22日、皮膚は28日、筋肉や肝臓は2ヶ月、骨は3ヶ月。私たちの体は3ヶ月に一回、新しく作り替えられているのです。これが新陳代謝です。



実は、これは私たちの体（外側）だけでなく、私たちの内側（心、霊）においても起こっていることなのです。今日の聖書の言葉には、「内なる人は日々新たにされています。」と書いてあります。イエスさまを信じ、心に受け入れた人は、古い罪の自分は死に、新しく生まれ変わりました。そればかりでなく、日々、新しい人に作り替えられているのです。たとえ昨日、失敗をしても今日、イエスさまから力をいただいてまた新たに歩み出せます。今日お友だちとケンカをしても、悔い改めて明日から仲良くする力をいただくことができます。たとえ学校やお友だちとの間で傷付くことがあっても、私たちの内に住んでくださっているイエスさまが私たちの心を支え、私たちを生かし、また元気で歩めるように励ましてくださるのです。

このようにして日々、体が成長していくように、心も成長していくのです。そしてイエスさまに似る者へと変えられていくのです。体の新陳代謝に必要なものは、栄養です。それと同じように心の新陳代謝のために必要なのは、心の栄養である聖書の言葉です。聖書の言葉を毎日いただき、聖書の言葉をいつもにぎって歩みましょう。



◆お祈り

「神さま、私たちを日々新たに作り替えてくださりありがとうございます。今日もイエスさまにあって生かし成長させてください。」

(北赤羽キリスト教会牧師 砂原和史)

1月3日

テーマ：「キリストのうちにあるなら」

聖書箇所：コリント人への手紙第二 5 章 17 節

◆今日のみことば

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。 コリント人への手紙第二 5 章 17 節

◆メッセージ



おこりんぼな自分、お友だちとケンカしちゃう自分、神さまに喜ばれない自分を発見する時がっかりして、「神さまのこと大好きなのに、なんで神さまに喜ばれないことをしちゃうんだろう。あのとき神さまに悔い改めのお祈りをしたのに、全然わたしは神さまの子どもらしくないなあ。神さまに喜ばれる私になりたいなあ。」って思う時あるよね。

イエスさまはこうおっしゃっているよ。「キリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です」って。

あなたがイエスさまを自分の罪からの救い主と信じて心にお迎えした時に、すでにイエスさまはあなたの罪で汚れてしまった心を、イエスさまのきれいな心に交換して新しくしてくださいます。そしてそんなあなたとイエスさまはいつも一緒にいてくださいます。プールに入ると水の中に入ると、ちいさな私たちでも体重の重い大人の人でも軽々と動かすことができるよね。それは、水の力がその人を浮かせているからなんだ。それと同じようにイエスさまを信じた私たちはイエスさまと一緒にいるから、神さまの子どもとして新しくされ、力強く歩むことができるんだよ。

「本当に私は神さまの子どもかなあ？」って不安になっちゃったときは、「見よ。すべてが新しくなりました」ってイエスさまがすでに宣言してくださっていることを思いだしてね。イエスさまがおっしゃっているんだから、絶対なんだ！「えー。ほんとかなあ」なんて、疑わないで、素直に「ありがとう！」ってみことばを受け取ろう！



◆お祈り

「イエスさまの十字架によって神さまの子どもとしてくださり、新しくしてくださってありがとうございます。今日もイエスさまと一緒にだからうれしいです。イエスさま、弱い私を助けてください。」

(北赤羽キリスト教会伝道師 砂原満喜子)

1月4日

テーマ：「キリストの使節」

聖書箇所：コリント人への手紙第二 5 章 20 節

◆今日のみことば

こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願し
ておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解
を受け入れなさい。
コリント人への手紙第二 5 章 20 節

◆メッセージ

私たちは、生まれながらにして罪人です。神さまから離れて、神さまに立ち向かう関係にあった
のです。そして、その責任は神さまにはなく、私たち人間にあるのです。ですから、おわびして仲直
りを言わなければならない責任は、私たち人間にあるのです。刑罰を受けなければならないのも、
罪の償いをしなければならないのも私たちです。でも、それは私たちにはできないことです。そん
な私たち人間のために、神さまは、イエス・キリストの十字架と復活によって、私たちを神さまと
和解させてくださったのです。そして、神さまは、私たちをご自分と和解させてくださったばかり



でなく、和解の務め（ほかの人たちにイエスさまのこと
を宣べ伝える働き）を私たちに与えてくださったのです。

だからこそ、私たちは「キリストの使節」なのです。
「キリストの使節」とは、キリストに代わって遣わされ
た人であり、キリストからゆだねられた使命があります。
それは、キリストの和解のメッセージを宣べ伝える使命
です。地上において、役割や働きは違っても、キリスト
にある人は、みんな「キリストの使節」です。男の人も

女の人も、大人も子どもも関係なく、みんなキリストの使節として、神さまからゆだねられた和解
のことばを伝えていくことを神さまは願っておられるのです。あなたの周りに、神さまのことを知
らないいる人はいますか。家族やお友だちの名前をあげてみてください。今日、あなたは誰にイ
エスさまのことを紹介するように、と神さまは願っておられると思いますか。神さまはその人のと
ころに私を遣わしています。神さまに代わって、その人にイエスさまの救いをお知らせしましょう。

◆お祈り

「どうぞ、神さまのことを知らない人に、イエスさまのことを伝えることができますように。」

(広福音キリスト教会牧師 田中秀之)

1月5日

テーマ：「喜んで与える人」

聖書箇所：コリント人への手紙第二 9 章 7 節～11 節

◆今日のみことば

ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。コリント人への手紙第二 9 章 7 節

◆メッセージ

三歳の息子は、お菓子やミカンなどを二つにわけっこするとき、どちらが大きいかを見て、少し考えてから「こっちで良いや」と言って、大きい方を私にくれます。本当は自分が大きい方を食べたいのですが、私が喜ぶのはどちらだろうかと考えて、自分から大きい方をくれるのです。このように大きい方をもらった私は、私のことを大事に思ってくれていると思っ、とてもうれしい思いでいっぱいになります。



さて、みなさんは今日与えられたみことばが教えているように、神さまにささげものをするとき、いやいやではなく、喜んでささげているでしょうか。神さまへのささげものとは、ここでは献金のことです。みんなは、おこずかいをもらって、その中から献金をささげていると思います。でもささげる時、「もったいないなあ」とか、「ささげなければ、もっとお菓子が買えるのに～」と考

えたことがあるかもしれません。どうして、このように神さまに献金をするとき、もったいないと思ってしまうのでしょうか。それは私たちの持っているすべてのものを神さまが与えてくださっているということを忘れてしまうことがあるからです。私たちは何もかも、神さまから与えられなければ生きていくことができません。ですから神さまは私たちにあふれるばかりの恵みを与え続けてくださっているのです。神さまは私たちに恵みを与えるのがもったいないとは、決して言われません。それは私



たちを愛して、大切に思っておられるからです。だからこそ、神さまに喜んでささげる人になるためには、まず神さまが私たちを愛し、恵みを注いでくださっていることに感謝していくことが大切です。また神さまに愛され、大切に思われていることを私たちが知り続け、私たちも神さまを愛し、大切に思うならば、私たちは神さまに喜んでささげる人になることができるでしょう。そのように喜んでささげる私たちを神さまはさらに愛して下さり、心から喜んでくださるのです。

◆お祈り

「神さま、あふれるばかりの恵みを与えて下さりありがとうございます。どうか神さまに喜んでささげる人になることができるように助けてください。」

(高松泉キリスト教会牧師 宮地宏一)

1月6日

テーマ：「サタンの変装」

聖書箇所：コリント人への手紙第二 11章 13節～15節

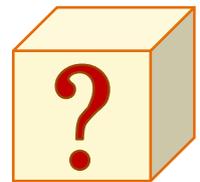
◆今日のみことば

ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなります。

コリント人への手紙第二 11章 15節

◆メッセージ

洋服でも、バッグでも、食べ物でも、他にもいろいろなものに偽物ってありますよね。どうして偽物があるのでしょうか？それは、本物がすごいからです。人気があるからです。それで、デザインや味など、本物に似せて作ってちょっと安くしたり、本物らしく見せてだましたりして、本物の邪魔をするのです。そして、偽物の方がたくさん売れてしまったり、中には、偽物を本物と思い込んでしまう人たちまで出てくるのです。こうなると、偽物を作った人の思うつぼ、ですね。



神さまに敵対するサタン＝悪魔も、神さまの邪魔をしようと、あの手、この手を仕掛けてきます。たとえば、偽物の神である偶像を拝ませるように人間たちを誘惑して、本物の神さまの邪魔をします。また、お金をたくさん持つことや偉くなることが何よりも大事なことと思込ませて、すべてを与えてくださる神さまを信じ、感謝することを忘れさせようとしています。「光の御使いに偽装する」(14節)とはそういうことです。エデンの園でエバに、善悪の知識の木の実を食べても死なないよ、神さまのようになれるよ、って魅力たっぷり誘惑した時と同じやり方です。

それで中には、聖書を使って間違っことを教えて人々をその気にさせたり、びっくりするよ



うなことをして見せたり、自分がキリストだ、とか、神だ、とか言う人たちも出てきたりしますが、それはサタンの手先として使われているだけなのです。ちっともすぐありません。やがて、サタンとともに滅ぼされてしまいます。

私たちは、こういうサタンの変装を知っておくこととともに、何より大切なのは、本当の神さまにしっかりと信じて立つことです。そのためにも、こうして毎日聖書のみことばをいただき、家族でともに祈り、神さまを礼拝し続けて行きましょう。そこには、サタンのつけ込める隙はありません。さあ、今日も、神さまとともに出発しましょう！

◆お祈り

「天のお父さま。サタンのいろいろな変装にだまされしないで、いつもあなただけを信じて歩みますように！」

(円山聖書教会牧師 時松六博)

1月7日

テーマ：「弱さのうちに現れる神の力」

聖書箇所：コリント人への手紙第二12章9節～10節

◆今日のみことば

しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」とされたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

コリント人への手紙第二12章9節

◆メッセージ

パウロさんには、ほかの人には言えない弱さ・・・何か、体の病気があったようです。パウロさんは、その病気さえよくなれば、もっとイエスさまのこともお伝えすることができる、もっとイエスさまのお役に立つことができる・・・と、そう考えていました。それで、パウロさんはこの病気が治るように、イエスさまが癒してくださるように、と何度も何度もお祈りしました。そのとき、

イエスさまはパウロさんに言われました。「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」

パウロさんは、ハッとしました。私は、この病気さえよくなれば、もっとイエスさまのお役に立つことができる、と思っていたけれど、そうじゃなかった。この病気（弱さ）は、イエスさまが私に与えてくださったもの。この弱さがあるからこそ、自分の力ではなく、イエスさまの力により頼むことができる。そしてこの弱さのうちにこそ、イエスさまの力が現れる、と。

パウロさんは変わりました。今まで病気や弱さはよくないことだと思っていたけど、その弱さを通して、イエスさまが力を現してくださることがわかったからです。

これさえなければ、この病気がよくなれば、もっとこうだったら・・・そんなふうに思うことがありますか。けれども、そんなあなたの弱さや欠けを通して、イエスさまは力を現してくださるのです。

与えられている弱さも感謝して、そこにイエスさまの力が現されていくようお祈りしましょう。

◆お祈り

「私の弱さをとおしても、イエスさまの力があらわされていますように。」

(東広島めぐみ教会牧師 加藤勇介)



1月8日

テーマ：「^{しんこうぎにん}信仰義認」

聖書箇所：ガラテヤ人への手紙^{びと}2章^{てがみ}16節^{しょう}16節^{せつ}

◆今日のみことば

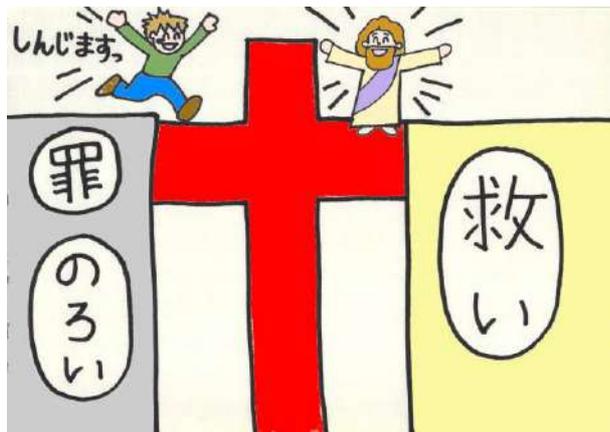
しかし、人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行ないによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもないからです。

ガラテヤ人への手紙^{びと}2章^{てがみ}16節^{しょう}16節^{せつ}

◆メッセージ

アニメ「ちびまる子ちゃん」に<丸尾君>という男の子が登場します。クラスの学級委員で、非常にまじめで成績優秀な子です。学級委員長になることに命がけで、選ぶクラスの人たちに良く見てもらおうと一生懸命。でも、なかなかみんなに「委員長」にふさわしいと認めてもらえません。人に認めてもらうのも大変ですが、神さまに認めてもらうのはどうでしょう？

聖書には「律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもない」と書かれています。神さまの目にならう正しい人はいないということです。それなのに人間はいい人になろうと外側をきれいにさせるよう努力するのは、マタイの福音書19章に、イエスさまにお金持ちの青年が「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」と尋ねる場面がありました。この人は良いことを積み重ねることで救われるかと思っていました。イエスさまから、「持っているものすべてを貧しい人に分け



なさい。」と言われた時、悲しい顔で去ってしまいました。少しはよいことができても、全部はできませんでした。内側から汚い心、醜い思いがわきでできます。また、悪いことをしてもよいことをすれば、それが帳消しにされるわけでもありません。人間は、神さまの望まれる正しさには到達したりすることは出来ないのです。

神さまはそのことを知ってくださり、それゆえにイエスさまを救い主として与えてください

ました。罪を悔い改め、すべての罪を負ってくださり、十字架で死んでくださったイエスさまを信じる信仰によって私たちは「義」なる者、正しく神さまに受け入れられる者となる事が出来るのです。

◆お祈り

「神さま。正しいことが出来ない自分を認め、悔い改めることができますように。イエスさまを信じる信仰によって義と認められることを感謝します。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

1月9日

テーマ：「キリストが私のうちに生きておられる」

聖書箇所：ガラテヤ人への手紙 2 章 20 節

◆今日のみことば

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

ガラテヤ人への手紙 2 章 20 節

◆メッセージ

皆さんには「これはよくないからやめたい」と思いながらやめられないことはありますか。正しいことをしたいと思いつつ、できないでいることはありますか。人は自分の力で変わったり、正しいことを行ったりできない弱さがあります。

今日の手紙を書いているパウロさんも悩んだ一人です。彼は「私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。」(ローマ7：19)と告白しています。

でもパウロさんはイエスさまによって与えられた救いを思い返しました。「古い自分は十字架で死に、新しいものとして生かされている。自分の力で生きていくという生き方から、イエスさまに生かされているものに変えられた。」ということ。



私たちのうちにもイエスさまがともにてくださいます。それなのに、死んだはずの弱い自分の力で頑張ろうとしていませんか？そういう自分の罪を認め、悔い改めることが必要です。反省ではありません。反省はしたことを悔いるだけで向いている方向は変わらないので同じことをしてしまいます。悔い改め、主にあって向きを変えて出発するのです。そしてそのような人の内にはイエスさまが共におられ、何を選び、何をしたら良いか、助けを与えてくださいます。

◆お祈り

「神さま。イエスさまが共に生きてくださり、私を助けてくださることを感謝いたします。いつでもそのイエスさまに頼り、歩んでいけるようにしてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

1月10日

テーマ：「神の子ども」

聖書箇所：ガラテヤ人への手紙3章26節～29節、4章6節～7節

◆今日のみことば

あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。

ガラテヤ人への手紙3章26節

◆メッセージ

神さまがどうして、あなたを「神の子ども」としてくださるのか、ふしぎに思ったことはありませんか？ 静かにし胸に手を当てて、自分のことを思い出してみましょう。自分かってで、いじわるを言ってしまったこと、お父さん、お母さん、また先生の言うことを聞かなかったこと、ほかに悪いことを考えて神さまを悲しませてしまったことはないでしょうか？ こんな私たちが、聖なる神さまの子どもになれるでしょうか？



神さまは、どうして、自分かってで、いじわるな心の中に罪を持っている

私やあなたを、決して追いはらわないで、情け深く、愛情深く愛しておられます。イエスさまを身代わりにして、私たちの罪をゆるしてくださいました。この救い

を受け入れて、信じることによって、罪がゆるされるだけでなく、子どもにしてくださる、と神さまがおっしゃいました。そして、聖霊なる神さまが、あなたに、父なる神さまを「おとうちゃん」と親しみをこめて、自由に話しかけ、お祈りすることを教えてくれます。あなたは、イエス様を信じているので「神の子ども」です！ ですから、気がねすることなく、心からのびのびと神さまに話をし、お祈りをしましょう！



◆お祈り

「イエスさま。今日も、罪を悔い改めて『神の子ども』とし、のびのびと神さまとお話をし、お祈りできますように。」

(高知喜びキリスト教会牧師 高瀬真)

1月11日

テーマ：「御霊の実」

聖書箇所：ガラテヤ人への手紙5章22節～23節

◆今日のみことば

しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。この
ようなものを禁ずる律法はありません。 ガラテヤ人への手紙5章22節～23節

◆メッセージ

神さまは、私たち一人一人を神さまのかたちに似せて創造されました。一人一人を見ていくと顔や形や能力などそれぞれ違いますが、私たちの内には神さまの性質が存在しているのです。

神さまの性質は、何でしょうか？それは今日の聖書箇所を書いてある愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制のことです。

私たちは、神さまを愛し人を愛するように創造されました。喜んだり、親切であったり、優しい性格を与えられたのです。

ある人はがんばって努力するかもしれません。でもいくら自分ががんばっても、なかなかそのようになることはできません。

いつも不満ばかり、怒ってばかり。神さまの性質を本当に持っているのかな、とってしまいます。なぜでしょうか？

それは、私たちの内に罪があるからです。私たちは、アダムが神さまに罪を犯して以降、罪をもって生まれるようになりました。イエスさまは、私たちの罪を赦すためにこの地上に生まれ、十字架に架かって死なれ、3日目によみがえられました。イエスさまを救い主と信じる人は、罪が赦

されます。そして助け主である聖霊が働いて、私たちに愛する心、優しい心を与えてくださるのです。でも、イエスさまを信じて罪がゆるされているはずなのに、と思うこともあるかもしれません。それは、自分の心の中に、欲をのさばらせてしまうからです。あなたのうちにおられるみ霊に「導いてください。」と祈りましょう。「イエスさまのご性質で満たしてください。」と。

イエスさまはぶどうの木のとえ話で、わたしにとどまるなら多くの実を結びますとお話しました。イエスさまを信じ、イエスさまの愛の中にとどまるならば、その人の内には愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制の実を豊かに結ぶことができるのです。

◆お祈り

「天の父なる神さま。神さまの子どもとして多くの実を結ばせてくださることを感謝します。

イエスさまの愛の中にとどまることができますように。」



(支援教師 大原高久)

1月12日

テーマ：「善を行なうのに飽いてはいけません」

聖書箇所：ガラテヤ人への手紙6章7節～10節

◆今日のみことば

善を行なうのに飽いてはいけません。失望せずにはいられず、時期が来て、刈り取ることになり
ます。
ガラテヤ人への手紙6章9節

◆メッセージ

神さまに喜ばれることをしているのにバカにされたり、仲間はずれにされたりすることはあり
ませんか。良いことをしているはずなのに、隠れてしないと何を言われるかと怖くなったり、みん
なと一緒に悪いことをしている方が楽に思えてしまうこともあるかもしれません。

わたしたちは、争いだらけの世界を生きています。神さまは神さまに似たものとしてわたした
ちを造られ、この地上でみんなで幸せに生きる、地上に天国を造る者
たちとして育ててくださいました。ところが神さまのことを忘れ、自分
のことにしか考えていないのだとしたら、争いしかない世界に住まう
ことになってしまっているのです。



神さまを忘れると、こうなります。でも、わたしたちは違いますね。
神さまはわたしたちを見捨てず、助け、導き、天国をこの地上に造る者たちとして特別に愛して
くださっているのです。わたしたちは悪いことをすると、悪い気分になります。良いことをすると、



それだけで幸せになることがあります。それは神さまがそのように
私たちを造られたからです。そして、神さまがすべてのことを裁く
ことを知っています。

良いこと、「善を行なう」(9節) ことに飽きてはいけません。いや
になってはいけません。たとえ良いことをして、そのことで何か
すぐに変わらなかったとしても、あきらめることはありません。こ

の地上にやがて天国があらわれることは神さまの確かな約束なのです。それを目指して、いまも
わたしたちはイエスさまといっしょに良いことをして歩いていくのです。

◆お祈り

「いやになったり、あきらめたりすることなく、良いことを続けていけますように。
天国がこの地上にあらわれますように。」

(愛媛めぐみ教会牧師 細谷潔)

1月13日

テーマ：「^{せ かい}世界の^{もと}基^の置^かれる^ま前^から」

聖書箇所：エペソ人への手紙^{びと}1章^{てがみ}3節^{しょう}～7節^{せつ}

◆今日のみことば

すなわち、^{かみ}神は私^{せ かい}たちを^{もと}世界の^お基^の置^かれる^ま前^から^{えら}彼^{みま}にあ^まって^{きよ}選^まび、^{きず}御^の前^ので^き聖^く、^{もの}傷^のな^い者^にし^ようと^され^まし^た。
エペソ人への手紙1章4節

◆メッセージ

^{せ かい}世界の^{はじ}始^まる^ま前^ので^どの^くら^い前^なの^でし^よう^ね。^{そうぞう}想^{ぞう}象^づき^ませ^ん。でも、^まそ^な前^から、^{かみ}神^さま^は私^たち^のこ^とを^{かんが}考^えて^おら^れま^した。^{かみ}神^さま^が天^と地^が造^られ^るる^る前^に、^ま私^たち^一人^一人^がイ^エス^さま^を信^じる^人と^なる^よう^に決^めて^おら^れま^した。^{おとな}私^たち^は、^こ大^人も^こ子^もも、^{てん}み^んな^{てん}天^と地^を造^られ^た神^さま^の御^まえ^に出^るこ^とが^でき^ませ^ん。^{たいよう}ち^{ょう}ど^{たい}太^陽の^{ひかり}光^が強^ずぎ^て見^るこ^とが^でき^ない^よう^に、^{たいよう}太^陽を^も造^られ^た神^さま^の強^い輝^きの^まえ^に出^る力^がな^いか^らで^す。^{かみ}と^{ころ}が^{かみ}神^さま^は、^{よわ}そ^な弱^い私^たち^を愛^し、^あ私^たち^とい^っし^ょに^いたい^と思^って^おら^れま^した。^{たいよう}太^陽や^{ちきゅう}地^球、^{うちゅう}宇^宙も、^{うちゅう}宇^宙に^ある^すべ^ての^{ほしほし}星^々も^{かみ}神^さま^に造^られ、^{かみ}神^さま^が決^めた^とお^りに^動い^てい^ます。^{ちきゅう}私^たち^の住^んで^いる^地球^が規^則正^しく^との^{うご}整^{った}動^きが^でき^るの^は、^{その}た^めで^す。^{ちから}そ^のよ^うな^すば^らし^い力^を持^つ神^さま^が、^{みこ}御^子イ^エス^キリ^スト^を地^上に^送り、^{こころ}私^たち^の心^を造^り変^え、^{かみ}神^さま^に受^け入^れら^れる^人に^して^くだ^さる^こと^をパ^ウロ^さん^は、^しぜ^ひ知^って^ほし^いと^{ねが}願^って^いま^した。^{かみ}そ^して、^{かみ}神^さま^のこ^とを^{よろこ}喜^んで^ほめ^たた^えて^ほし^いと^{ねが}願^って^いま^した。



^{せ かい}この^な世界^がま^だ何^もな^いこ^ろ、^{しん}私^たち^がイ^エス^さま^を信^じて^{かみ}神^さま^の御^まえ^に、^{きよ}「^{きず}聖^く、^{もの}傷^のな^い者^にし^ようと^き決^めて^くだ^さい^まし^た。^{しん}「^{おも}ほん^とう[!]」、^{しん}私^たち^は、^{おも}信^じら^れな^い思^いが^しま^す。でも^{せいしよ}聖^書は、^{かみ}私^たち^が神^さま^の御^まえ^に立^てる^よう^にし^てく^ださ^つた^{かみ}神^さま^の計^{けい}画^{かく}で^す。^{うれ}す^ばら^しい^です^ね。^{うれ}嬉^しい^です^ね。^{つく}私^たち^が造^り主^であ^る神^さま^を心^から^ほめ^たた^えま^しよ^う。

◆お祈り

「^{かみ}神^さま、^{かみ}私^が、^あこ^んな^にも^あす^ばら^しい^あ神^さま^の愛^と赦^しを^う受^け、^{とも}イ^エス^さま^と共^に住^むこ^とが^でき^るこ^とを^{かん}謝^しま^す。」

(北九州聖書教会牧師 竹元紘)

1月14日

テーマ：「恵みのゆえに信仰によって」

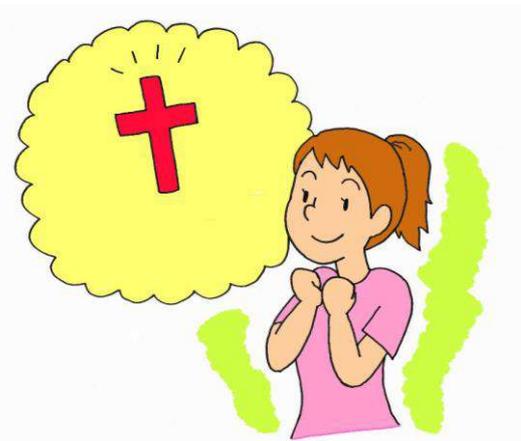
聖書箇所：エペソ人への手紙2章8節

◆今日のみことば

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。エペソ人への手紙2章8節

◆メッセージ

一年前のできごとですが、春のある日、うすみどりのすきとおるよう
に美しい色の蝶のさなぎが、庭のコンクリート壁にぴったりくっつ
ているのを見つけました。幾日かしたらきっと美しい蝶になって飛び
立つだろうと毎日見ていましたが、いつまでもそのままの姿で蝶に変
わることがありませんでした。さなぎのまま死んでしまったのかもしれ
ません。私たちがかわいい赤ちゃんとして生まれ、そして成長し、や
がて年を取って死を迎えます。もしかしたら、あの蝶のように、大人になる前に死んでしまうこ
ともあるかもしれません。死んですべてが終わりでしょうか？もし、そのままで終わるならば私
たちの人生は本当に虚しいものです。



聖書には、死んだ後に神さまの審きをうけることが書かれて
います。神さまに「罪がない」と認められるようなよい人間にな
るためには、どんなに頑張らなくてははいけません。残念な
ことに、神さまの前で、罪がないと認められる人はいません。ど
んなに努力しても私たちの力で罪に勝つことも、滅びを免れ
る方法はありません。そのような私たちのために父なる神さま
はイエスさまを与えてくださいました。イエスさまが私たちの
罪を全部負って、十字架でいのちをささげてくださいました。

これは、神さまが私たちに与えてくださった救いのプレゼントです。イエスさまを信じることに
よって私たちは救われ、神さまの審きの時に「罪がない」と認められて、永遠のいのちをいただく
ことが出来るのです。

私たちの内からは出てこない、この恵み・神さまからのプレゼントである救いを受け取りまし
ょう。そして永遠のいのちの約束と天の御国の希望をもって歩んでいきましょう。

◆お祈り

「私を恵みによって救い、生かしてくださり、キリストの恵みによって、つくり変えてくださ
る神さまに感謝します。」

(北九州聖書教会伝道師 竹元光子)

1月15日

テーマ：私たちは神の作品

聖書箇所：エペソ人への手紙 2章10節

◆今日のみことば

“私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。”
エペソ人への手紙 2章 10節

◆メッセージ

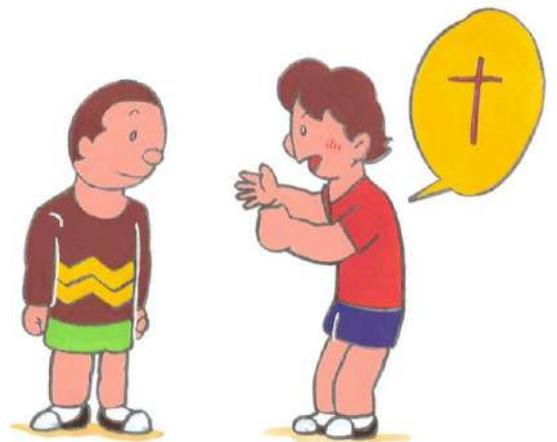
粘土でうさぎ、ライオン、お魚、車、おうちなど作った事がありますか。一度は学校で作ったことがあるでしょう。自分が一生懸命に作って気に入ったものは、とても大切にしますね。

神さまは僕たち私たちをお造りになり、私たち一人一人を大切に思っておられます。しかし、僕たち私たちは、その神さまのことがイエスさまを信じるまではわかりません。神さまと離れて生きることを罪といい、それはひとりぼっちの毎日で、心はからっぽで本当の喜びがありません。そのままでは神さまから罪の罰を受けなければなりません、神さまは人間を愛し、イエスさまをこの地上にお送りく



ださいました。イエスさまはすべての人の罰を受けるために、十字架でのちを捨てて、罪のない血を流し死なれ、三日後に死から、見えるからで復活されました。このイエスさまを信じるならだれでも救われ、新しく造られた人となります。それは心から喜びがわきあがり、神さまの言葉を聞き、神さまとお話ができるようになることです。また、教会のお友達ができ、一緒にお祈りしたり、聖書を読んだり、神さまをほめたたえる歌を歌ったりして心が楽しくなります。

神さまが、このようにするようにもともと造っていただきました。それだけではなく良い行いをも、イエスさまを信じた一人ひとりに用意して下さっているのです。たとえば、教会のお友だちと一しょに教会のお手伝いをしたり、教会のキャンプに参加したり、教会に来ていないお友だちにイエスさまのことをお話ししたりすることです。聖書に出てくるパウロさんという人は外国にいてイエスさまを伝えるお仕事をして、多くの教会を建て、その教会の人々の信仰を強めるために13の手紙を書き、それらが聖書になりました。僕たち私たちがパウロさんのように良い行いとしてイエスさまを伝えたり、教会のお友だちの信仰を強めることばを語ったり、勇気づけたりしましょう。



◆お祈り

「神さまが僕たち私たちを造って下さって、感謝します。イエスさまをいつも頼って、良い行いができますように。」

(福岡めぐみ教会牧師 入江喜久雄)

1月16日

テーマ：神の家族

聖書箇所：エペソ人への手紙 2章14節～19節

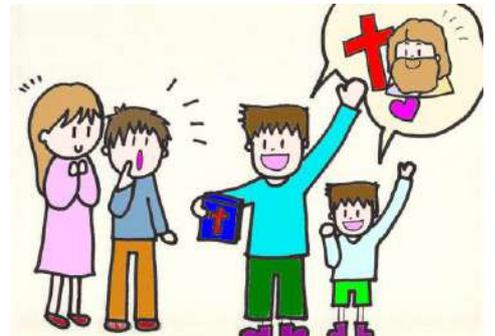
◆今日のみことば

こういうわけで、あなたがたは、もはや他^た国^{こく}人^{じん}でも寄^き留^{りゅう}者^{しや}でもなく、今^{いま}は聖^{せい}徒^とたちと
同^{おな}じ国^{こく}民^{みん}であり、神^{かみ}の家^か族^{ぞく}なのです。 エペソ人への手紙2章19節

◆メッセージ

神^{かみ}さまは、私^{わたし}たちに2つの家^か族^{ぞく}をく^くださ^さっています。1つは、私^{わたし}たちが「オギャー！」
とい^いって生^うまれ^まれ^れ育^{そだ}った家^か族^{ぞく}。もう1つは、教^き会^{こう}とい^いう神^{かみ}の家^か族^{ぞく}です。ど^どち^ちら^らも大^{たい}切^{せつ}な家^か族^{ぞく}
です。特^{とく}に教^き会^{こう}とい^いう神^{かみ}の家^か族^{ぞく}は、神^{かみ}さまの愛^{あい}を^をず^ずと^とい^いた^ただ^だく^くこ^こと^とが^がで^でき^きる^るとい^いう素^す晴^は
ら^らしい家^か族^{ぞく}です。えっ？ど^どう^うして生^うまれ^まれた場^ば所^{じょ}も、住^すん^んで^でい^いる場^ば所^{じょ}も違^{ちが}う^うの^のに家^か族^{ぞく}なの？
と^と思^{おも}うか^かも^もし^しれ^れま^ませ^せん^んね。

私^{わたし}たちはア^あダ^だムとエ^えバ^ばが罪^{つみ}を犯^{おか}して以^い来^{らい}、生^うまれ^まれた時^{とき}から心^{こころ}は神^{かみ}さまから離^{はな}れて^てい^います。
こ^これ^れが罪^{つみ}です。こ^この罪^{つみ}が人^{ひと}と人^{ひと}、人^{ひと}と神^{かみ}さまとの平^{へい}和^わを壊^{こわ}すの^のです。こ^この罪^{つみ}が^があ^ある^るの^ので神^{かみ}
さ^さま^まから罰^{ばつ}をう^うけ^けな^なけ^けれ^れば^ばな^なり^りま^ませ^せん。と^とこ^ころ^ろが、神^{かみ}さまは私^{わたし}たち^ちを神^{かみ}さま^まの^の子^こども^もに^にし^し
た^たい^いと^と思^{おも}っ^つて、大^{たい}切^{せつ}な^なひ^ひと^とり^り子^こ・イ^いエ^えス^すさ^さま^まを^をお^お送^{おく}り^りく^く
だ^ださ^さい^いま^まし^した。平^{へい}和^わの神^{かみ}である^{である}イ^いエ^えス^すさ^さま^まはこ^この罪^{つみ}を^を取^とり^り除^{のぞ}
く^くた^ため^めに^に来^きて^てく^くだ^ださ^さい^いま^まし^した。イ^いエ^えス^すさ^さま^まは十^{じゅう}字^じ架^かに^にか^か
か^かつ^つて^てき^きよ^よい^い血^ちを^を流^{なが}し、私^{わたし}たち^ちの罰^{ばつ}を^を代^かわ^わり^りに^に受^うけ^けて^て死^しん^んで^で
く^くだ^ださ^さり、3日^{かめ}目^めに^によ^よみ^みが^がえ^えつ^つて^てく^くだ^ださ^さい^いま^まし^した。こ^このイ^い
エ^えス^すさ^さま^まを^を信^{しん}じて^{いて}心^{こころ}に^に受^うけ^け入^いれた^{れた}人^{ひと}は罪^{つみ}が^が赦^{ゆる}され、だ^だれ^れ
でも神^{かみ}さま^まの^の子^こども^もと^とな^なり^り家^か族^{ぞく}に^にな^なる^るの^のです。イ^いエ^えス^すさ^さま^まの十^{じゅう}字^じ架^かは、私^{わたし}たち^ちが^が人^{ひと}を^を悪^{わる}
く^く思^{おも}う^う心^{こころ}や憎^{にく}しみ^みを^を取^とり^り去^さつ^つて、神^{かみ}の家^か族^{ぞく}を^を一^{いつ}つ^つに^にし^して^てく^くれ^れま^ます。お^お父^{ちち}さん^{さん}は^は神^{かみ}さま、お^お母^{はは}
さん^{さん}は信^{しん}仰^{こう}を^を育^{そだ}て^てく^くれ^れる^る教^き会^{こう}です。教^き会^{こう}の^の人^{ひと}は^はみ^みん^んな^なき^きょう^{ょう}だ^だい^いです。



住^すむ場^ば所^{じょ}や^や国^{こく}、言^{ごん}語^ご、年^{ねん}は^は違^{ちが}つ^つても^もみ^みん^んな^な神^{かみ}の家^か族^{ぞく}です。
天^{てん}国^{こく}へ^へ行^いつ^つても^もず^ずつ^つと^とづ^づつ^つと^と続^{つづ}く^く神^{かみ}の家^か族^{ぞく}、そ^それ^れが^が教^き会^{こう}
です。寂^{さび}しく^く一^{ひとり}人^{ひと}ぼ^ぼっ^っち^ちだ^だと^と思^{おも}っ^つて^てい^いる^る人^{ひと}も、神^{かみ}さま^まの^の愛^{あい}
を^をい^いっ^っぱ^ぱい^いた^ただ^だき、一^{いっ}緒^{しょ}に^にみ^みこ^こと^とば^ばを^を読^よみ^み・お^お祈^{いの}り^りし、
た^たす^すあ^あい^いあ^あい^いあ^あき^きょう^{ょう}か^かい^いの^のが^が教^き会^{こう}です。こ^この^の神^{かみ}の家^か族^{ぞく}
か^から^ら離^{はな}れ^れな^ない^いで、ず^ずつ^つと^と大^{たい}切^{せつ}に^にし^して^てい^いき^きま^まし^しょう。

◆お祈り

「神^{かみ}さま。私^{わたし}が神^{かみ}の家^か族^{ぞく}を^を愛^{あい}して、ず^ずつ^つと^とづ^づつ^つと^と教^き会^{こう}を^を大^{たい}切^{せつ}に^にし^して^てい^いけ^けます^すよ^よう^うに。神^{かみ}の
家^か族^{ぞく}を^をも^もつ^つと^とも^もつ^つと^とい^いっ^っぱ^ぱい^い与^{あた}えて^てく^くだ^ださ^さい。」 (福^{ふく}岡^{おか}め^めぐ^ぐみ^み教^き会^{こう}伝^{でん}道^{だう}師^し 入^い江^え直^{ちく}美^み)

1月17日

テーマ：教会の成長

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章11節～16節

◆今日のみことば

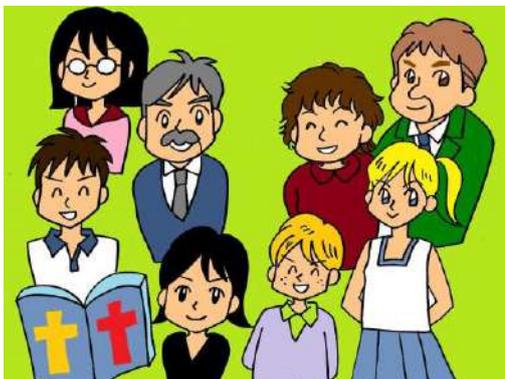
キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。エペソ人への手紙4章16節

◆メッセージ

赤ちゃんが生まれると、どれくらいのスピードで大きくなると思いますか。生まれてからの2年間はとても早く成長します。生まれた時の身長は50センチくらいですが、6ヶ月をすぎると17センチも成長し、次の6ヶ月にはさらに8センチも成長するそうです。身長だけではなく体重も重くなります。赤ちゃんが生まれた時は普通3000グラムくらいですが、6ヶ月の間毎日20-30グラムずつ成長します。一年経つと生まれたときの三倍の1キログラムくらいになるそうです。そのように成長するために赤ちゃんはお母さんから離れないで、飲んで、寝る毎日です。



人の体の成長のように教会もキリストから離れないでみことばを聞き、食べて、飲んで、寝ると成長します。それから、私たちの体が自分一人だけで成長することができないように、教会の成長も自分一人の力で成長することはできません。教会にしっかりとつながっていることが必要です。私たちは自分一人で成長することはできません。一人で聖書を学んだり、一人で祈ったり、一人で恵まれて成長するだけでなく、キリストから



離れないで、教会の家族と仲良く祈り合い、共に聖書を学び、信仰をもって仲良く交わりをすることが大切です。

神さまの創られた私たちのいのちの成長は少しずつで、キリストの愛によって教会とつながってこそ、一緒に成長していくのです。キリストから離れないで成長していきましょう。

◆お祈り

「神さま、教会から離れないで成長していけるように助けてください。」

(大分希望キリスト教会牧師 朴忠勲)

1月18日

テーマ：神にかたどり造り出された新しい人

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章21節～32節

◆今日のみことば

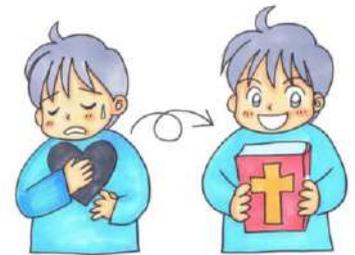
真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。エペソ人への手紙 4章24節

◆メッセージ

私たちは、自分がしたくないと思っていることを、仲良しの友だちにしてしまうことがありますか。友だちに親切なことばをかけようと思っているのに、かえって友だちを悲しませるようなことばを言ってしまうたり、友だちと仲良くしようと思っているのに、友だちにいじわるをして傷つけてしまったりすることはありますか。

聖書は、私たちの心にあるそのような思いがことを「罪」と言っています。友だちに良いことばをかけよう、親切にしようと思っているのに、自分の思いとは正反対のことをしてしまいます。残念ながら、私たちは自分の力で、いつも良い心で友だちに親切をすることはできないのです。助けが必要なのです。

イエスさまが、助けてくださいます。私たちのために十字架にかかってくださって罪を赦す道を準備してくださったのはイエスさまです。まず、イエス



さまを信じましょう。それだけではありません。新しい力を私たちにくださっているのです。私たちはイエさまから新しいパワーをいただくことができます。そのパワーとは聖霊なる神さまのことです。聖霊なる神さまが私たちの心のうちに住んでくださる時、私たちは新しく造られた人として生きることができるのです。

みんながイエスさまを信じて、お互いに心優しくなり、赦し合うことができれば素晴らしいですね。



◆お祈り

「イエスさまを信じ、友だちを心から愛し、親切にする力を与えてください」

(大分恵みキリスト教会牧師 岡山敦彦)

1月19日

テーマ：光の子どもらしく歩みなさい

聖書箇所：エペソ人への手紙 5章8節

◆今日のみことば

あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあつて、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。エペソ人への手紙5章8節

◆メッセージ

あなたは、友だちや先生が自分のことをどう思うかなといつも人の目ばかり気にしていませんか。少しいやなこと言われると落ち込んでがっかりしてしまったり、また少しほめられるといばってしまったりすることはありますか。アメリカのマックス・ルケードという人が書いた「たいせつなきみ」という絵本があります。主人公は、パンチ・ネロという木の人形。人形たちはみんな集まると、互いにシールをくっつけっこしていました。みんなの前で得意なものを見せると、みんなはその人に「お星さまシール」をくっつけてあげました。しかし得意なものがないと「だめじるしシール」をくっつけられるんです。パンチ・ネロはというと、「いつもだめじるしシール」ばかりくっつけられていました。本当はほめられたいのに、いつも見下され馬鹿にされて落ち込んでいたのです。自分を否定したり、人をうらやんだりするばかりでした。でも、イエスさまの光のない暗闇の中では、そんな自分の姿にも気がつきません。

「キリストが、あなたを照らされる」とありますように、イエスさまがあなたを照らしてくださいます。イエスさまの光に照らされると心の中の暗い罪も、よくわかります。罪がわかるとやっぱりだめだなあ、と落ち込んだじゃう？いいえ、イエスさまはその罪の身代わりになって十字架にかかってください、その罪を

ゆるしてくださいます。「光の子」には、暗いところがありません。イエスさまの愛を知って信じて、心が満たされ、人の目が気にならなくなるのです。

ですから「光の子どもらしく歩みなさい」とは、神さまに愛されていることをいつも喜び、感謝して、その愛を他の人にあらわしていく人になりなさいということです。あなたがそう願うなら、神さまはそうしてくださいます。

◆お祈り

「神さま。光の子としてくださってありがとうございます。〇〇が、人の目を気にしないで、あなたの愛を他の人にあらわしていく『光の子ども』らしく歩めますように。」

*〇〇に自分の名前を入れて、お祈りしましょう。（中津聖書教会牧師 糸野和俊）



1月20日

テーマ：主しゅにあって両親りょうしんに従したがいなさい

聖書箇所：エペソ人びとへの手紙てがみ 6章 1節しょう～4節せつ

◆今日のみことば

子どもたちよ。主しゅにあって両親りょうしんに従したがいなさい。これは正しいことだからです。

エペソ人びとへの手紙てがみ 6章 1節しょう

◆メッセージ

お父さん、お母さんの言うこと、ちゃんと聞いて従したがっていますか？ドキッ！



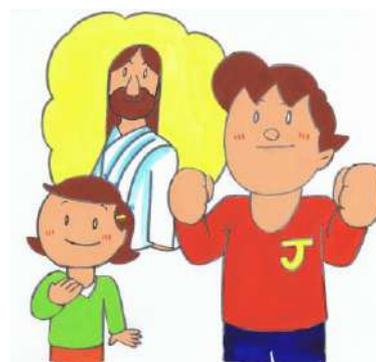
子どもたちは、親おやを尊敬そんけいし、親おやに従したがう。これが聖書の基本的な教えです。もし、子どもが親おやを無視むししたり、馬鹿ばかにするなら、それは親おやの教えおしに従したがわないことになります。

パウロさんがこのように命令めいれいしたのは、従したがうことが主しゅにあって正しいことであり、第一だいいちの戒めいましであり、幸せしあわと長生きながいのためだからです。

第一だいいちの戒めいましというのは、十戒じっかいのうちで人ひととの間あいだのことで命めいじられている最初さいしょの戒めいましだからです。親子おやこって、神かみさまが与あたえてくださる人ひととの関係かんけいの、一番大切いちばんたいせつなものなんだね。そして、子どもに「大切なこと＝神かみさまをおそれて生きること」を教おしえるのは、親おやの責任せきにんです。

幸せしあわと長生きながいは、神かみさまの祝福しゅくふくを表あらわしています。お父さん、お母さんのことことを尊敬そんけいして、言うことことを聞くことことによって、神かみさまの祝福しゅくふくを受けることができるのです。

イエスさまも両親りょうしんに仕つかえていました（ルカ2：51）。イエスさまが12歳さいになったときに、イエスさまとマリヤさんとヨセフさんはエルサレムエルサレムに行いきました。そのとき、イエスさまは一人ひとりで神殿しんでんに残のこってしまっていて、両親りょうしんを心配しんぱいさせたことがありましたね。イエスさまは「父ちち、母ははを敬うやまえ」ということばを無視むししていたのでしょうか。いいえ、「それからイエスは、いっしょいっしょに下くだって行いかれ、ナザレナザレに帰かえって、両親りょうしんに仕つかえられた。」（ルカ2：51）。イエスさまは確たしかにお父さん、お母さんおやを愛あいしていました。そして尊敬そんけいしていたのです。この愛あいを、私わたしたちも持ちもたいと思います。



◆お祈り

「イエスさまも両親りょうしんを敬うやまい従したがったように、わたしも両親りょうしんの言うことことに従したがうことができますように。」
(宮崎めぐみ聖書教会牧師 金桓基)

1月21日

テーマ：神の武具

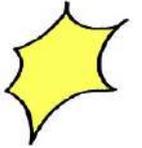
聖書箇所：エペソ人への手紙 6章10節～18節

◆今日のみことば

“悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。
エペソ人への手紙 6章 11節

◆メッセージ

戦いという、ゲームの世界のようですね。もし、本当の戦いだったら、怖い気持ちになります。武器もなかったら、どのようにして戦うことができるでしょう。神さまを信じて神さまの子どもになると、霊的な戦いがあります。戦う相手は人間ではなく、悪魔です。目では見えませんが、ゲームの世界のことでなく、本当のことですよ。悪魔は神さまから引き離そうと戦いを挑んできます。霊的な戦いは肉体の力で戦うことではなく、霊的な力で戦います。そのために必要とするのが神さまの武具です。私たちはそれを、神さまからもらっています。神さまの武具には六つがありますが、五つは守るための武具です。もう一つは攻めるための武器です。



「真理の帯」は、みことばの力で生きることです。「正義の胸当て」とは、イエスさまがながされた十字架の血によって赦された者として心を見守ることです。「平和の福音」は、自分の悟りや力に頼らず、神さまが備えてくださっためぐみによって生活を守ることです。「信仰の大盾」とは、悪魔が私たちの心に不安、絶望、ねたみ、憂い、心配などを入れようとするとき、イエスさまを信じる信仰によって防ぐことです。「救いのかぶと」は、罪から救われて義人になったことを思い続けて守ることです。

それから、悪魔と積極的に戦うためには「御霊の与える剣」を使わなければなりません。これは、神さまのみことばを宣言することによって、悪魔の策略に対して立ち向かうことです。

そして、神さまのすべての武具を身に着けてから、祈らなければなりません。祈りは、神さまのすべての武具を自由自在に使って霊的な戦いで勝利して、ずっと前向きに歩めるように助けます。だから、目を覚まして、御霊によって祈り続けましょう。

◆お祈り

「神さまの武具を身に着けて、祈りで強められ、悪魔の策略を打ち破って、勝利することができますように。」
(光の森聖書教会牧師 裊東烈)



1月22日

テーマ：人を自分よりすぐれた者と思いなさい

聖書箇所：ピリピ人への手紙 2章3節～6節

◆今日のみことば

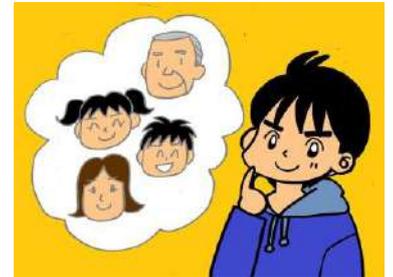
何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい。ピリピ人の手紙2章3節

◆メッセージ

主イエスさまは弟子たちに「何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい」(マタイ7:12)と言われました。これはほかの人とどのようにかわるかについてのイエスさまの素晴らしい教えです。でも、私たちは自分のことを優先してしまいがちです。そして、人の気持ちを大きく傷つけてしまうことがあります。それは自分のこともつける結果を招きます。

そうならないように、神さまはさらに教えてくださいました。「何事でも自己中心や虚栄からすることなく」です。自分のほしいものを兄弟や友達と分けなければいけないとき、独り占めしていませんか？一番先に一番いいものを取ろうとしていませんか？それは、自分を誰よりも優れた者だと思ひこむ心です。自分のことをよく見せようとしていませんか？神さまは私たちの心の中も知っておられます。神さまは、私たちに必要なものはちゃんと与えてくださいますから心配はいりません。

つぎに、「へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい」です。へりくだる心とは修行によって得られる心ではなくて、人となってくださったイエスさまのように、人に仕える姿です。ほかの人を自分よりも優れていると思うことは、キリストの愛



から始まる心遣いです。このようにキリストの愛をもって他人の徳を高めることができるようになります。兄弟や友達の良いところを見つけましょう。神さまは、素晴らしい人々を私の周りにおいでくださっています。嬉しいですね。

私たちは、どこへ行っても神さまの栄光のために生きることができます。ですから、すべての行いを通して、キリストの香りを放つキリスト者になりましょう。いつも主イエスさまと共に歩み、主イエスさまのような心構えで周りの人々を尊重し、他の人を生かして歩む人になりましょう。

◆お祈り

「みことばのように他の人を尊敬して、イエスさまの弟子として歩むことができるように助けてください。」(宜野湾聖書教会牧師 金敦永)

1月23日 テーマ：すべてのことをつぶやかず、^{うたが}疑^{おこな}わずに行いなさい

聖書箇所：ピリピ人への手紙 ^{びと}2章 ^{てがみ}13節、^{しょう}14節 ^{せつ}

◆今日のみことば

^{かみ}神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて ^{はたら}志^{こころざし}を立てさせ、^た事^{こと}を行^{おこな}わせてくださるのです。
ピリピ人への手紙2章13節

◆メッセージ

^{かみ}神さまのみことばの通りにしたいなあと、^{とお}思^{おも}って、やってみたことはありますか。どんなことですか。【^き聞^{とも}いているお友^{とも}だちは^{こた}答^{こた}えましょう】

それはとても素晴らしいことです！「^{かみ}神さまのみことばの^{とお}通^{とお}りにしたい。」という^{おも}思^{おも}いは、^{かみ}神^{かみ}さまが^{あた}与^{おも}えて^{かみ}く^{おも}だ^{あた}さ^{あた}った^{あた}思^{おも}い^{あた}です。神^{かみ}さまは、^{おも}思^{おも}いを^{おも}与^{おも}えて^{かみ}く^{おも}だ^{かみ}さ^{かみ}る^{かみ}だけ^{かみ}では^{かみ}なく、^{かみ}で^{かみ}きる^{かみ}よ^{かみ}う^{かみ}に^{かみ}し^{かみ}て^{かみ}く^{かみ}だ^{かみ}さ^{かみ}い^{かみ}ま^{かみ}す。

でも、^{おも}す^{おも}ぐ^{おも}に^{おも}思^{おも}い^{おも}通^{おも}りに^{おも}な^{おも}ら^{おも}ない^{おも}か^{おも}も^{おも}し^{おも}れ^{おも}ま^{おも}せ^{おも}ん。や^{おも}っ^{おも}て^{おも}み^{おも}た^{おも}も^{おも}う^{おも}ま^{おも}く^{おも}い^{おも}か^{おも}な^{おも}い、^{くる}苦^{くる}し^{くる}い^{くる}こ^{くる}と^{くる}が^{くる}つ^{くる}づ^{くる}く^{くる}と^{くる}ど^{くる}う^{くる}で^{くる}し^{くる}ょう。「^{かみ}み^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}ば^{かみ}に^{かみ}従^{かみ}っ^{かみ}て^{かみ}い^{かみ}る^{かみ}の^{かみ}に、^{かみ}な^{かみ}ん^{かみ}で^{かみ}神^{かみ}さ^{かみ}ま^{かみ}は^{かみ}助^{かみ}け^{かみ}て^{かみ}く^{かみ}れ^{かみ}な^{かみ}い^{かみ}ん^{かみ}だ^{かみ}ら^{かみ}う。」^{かみ}神^{かみ}さ^{かみ}ま^{かみ}は、^{かみ}私^{かみ}の^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}な^{かみ}ん^{かみ}か^{かみ}大^{かみ}事^{かみ}に^{かみ}し^{かみ}て^{かみ}く^{かみ}れ^{かみ}な^{かみ}い^{かみ}ん^{かみ}じ^{かみ}ゃ^{かみ}な^{かみ}い^{かみ}か。」^{かみ}な^{かみ}ん^{かみ}て、^{おも}思^{おも}っ^{おも}て^{おも}し^{おも}ま^{おも}い^{おも}そ^{おも}う^{おも}で^{おも}す。そ^{おも}し^{おも}て、「^{おも}も^{おも}う^{おも}や^{おも}～^{おも}め^{おも}た！」と、^な投^なげ^な出^なし^なて^なし^なま^なう^なこ^なと^なに^ななる^なか^なも。

それでは、^{はじ}せ^{はじ}っ^{はじ}か^{はじ}く^{はじ}始^{はじ}め^{はじ}た^{はじ}神^{かみ}さ^{かみ}ま^{かみ}の^{かみ}み^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}ば^{かみ}の^{かみ}な^{かみ}の^{かみ}に、^{かみ}神^{かみ}さ^{かみ}ま^{かみ}が^{かみ}す^{かみ}ば^{かみ}ら^{かみ}し^{かみ}い^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}を^{かみ}し^{かみ}て^{かみ}く^{かみ}だ^{かみ}さ^{かみ}る^{かみ}の^{かみ}を^{かみ}見^{かみ}る^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}が^{かみ}で^{かみ}き^{かみ}な^{かみ}く^{かみ}な^{かみ}っ^{かみ}て^{かみ}し^{かみ}ま^{かみ}い^{かみ}ま^{かみ}す。神^{かみ}さ^{かみ}ま^{かみ}に^{かみ}つ^{かみ}ぶ^{かみ}や^{かみ}い^{かみ}た^{かみ}り、^{かみ}神^{かみ}さ^{かみ}ま^{かみ}の^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}を^{かみ}疑^{かみ}っ^{かみ}た^{かみ}り^{かみ}し^{かみ}な^{かみ}い^{かみ}で、^{かみ}従^{かみ}い^{かみ}続^{かみ}け^{かみ}ま^{かみ}し^{かみ}ょう。



ピリピのクリスチャンは、パウロさんの^{はげ}激^{はげ}しく^{つら}辛^{つら}い^{つら}伝^{つら}道^{つら}の^{つら}闘^{つら}い^{つら}を^{つら}い^{つら}つ^{つら}も^{つら}見^{つら}て^{つら}い^{つら}た^{つら}の^{つら}で、^{つら}パ^{つら}ウ^{つら}ロ^{つら}さん^{つら}を^{つら}尊^{つら}敬^{つら}し^{つら}愛^{つら}し^{つら}て、^{つら}物^{つら}心^{つら}両^{つら}面^{つら}か^{つら}ら^{つら}熱^{つら}心^{つら}に^{つら}支^{つら}え^{つら}、^{つら}励^{つら}ま^{つら}し^{つら}助^{つら}け^{つら}て^{つら}い^{つら}ま^{つら}し^{つら}た。ま^{つら}る^{つら}で、^{つら}家^{つら}族^{つら}の^{つら}よ^{つら}う^{つら}に。で^{つら}も、^{つら}イ^{つら}エ^{つら}ス^{つら}さ^{つら}ま^{つら}に^{つら}つ^{つら}い^{つら}て^{つら}熱^{つら}心^{つら}に^{つら}伝^{つら}道^{つら}す^{つら}る^{つら}パ^{つら}ウ^{つら}ロ^{つら}さん^{つら}を^{つら}心^{つら}よ^{つら}く^{つら}思^{つら}わ^{つら}な^{つら}い^{つら}人^{つら}た^{つら}ち^{つら}は、^{つら}鞭^{つら}で^{つら}打^{つら}つ^{つら}た^{つら}り、^{つら}牢^{つら}屋^{つら}に^{つら}入^{つら}れ^{つら}た^{つら}り^{つら}し^{つら}ま^{つら}し^{つら}た。ま^{つら}た、^{つら}ク^{つら}リ^{つら}ス^{つら}チ^{つら}ャ^{つら}ン^{つら}の^{つら}中^{つら}に^{つら}陰^{つら}口^{つら}や^{つら}非^{つら}難^{つら}を^{つら}す^{つら}る^{つら}人^{つら}た^{つら}ち^{つら}が^{つら}い^{つら}た^{つら}の^{つら}か^{つら}も^{つら}知^{つら}れ^{つら}ま^{つら}せ^{つら}ん。そ^{つら}の^{つら}中^{つら}で、^{つら}ピ^{つら}リ^{つら}ピ^{つら}の^{つら}ク^{つら}リ^{つら}ス^{つら}チ^{つら}ャ^{つら}ン^{つら}た^{つら}ち^{つら}は、

^{つら}パ^{つら}ウ^{つら}ロ^{つら}さん^{つら}を^{つら}支^{つら}え^{つら}続^{つら}け^{つら}ま^{つら}し^{つら}た。だ^{つら}か^{つら}ら、^{つら}テ^{つら}サ^{つら}ロ^{つら}ニ^{つら}ケ^{つら}教^{つら}会^{つら}や^{つら}エ^{つら}ペ^{つら}ソ^{つら}教^{つら}会^{つら}が^{つら}誕^{つら}生^{つら}し^{つら}ま^{つら}し^{つら}た。^{つら}神^{かみ}さ^{かみ}ま^{かみ}が^{かみ}与^{かみ}え^{かみ}て^{かみ}く^{かみ}だ^{かみ}さ^{かみ}つ^{かみ}て^{かみ}い^{かみ}る^{かみ}み^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}ば^{かみ}に^{かみ}従^{かみ}う^{かみ}と^{かみ}き、^{かみ}神^{かみ}さ^{かみ}ま^{かみ}が^{かみ}し^{かみ}て^{かみ}く^{かみ}だ^{かみ}さ^{かみ}る^{かみ}す^{かみ}ば^{かみ}ら^{かみ}し^{かみ}い^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}を^{かみ}体^{かみ}験^{かみ}す^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}が^{かみ}で^{かみ}き^{かみ}る^{かみ}こ^{かみ}の^{かみ}で^{かみ}す。

◆お祈り

「^{かみ}神^{かみ}さ^{かみ}ま、^{かみ}み^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}ば^{かみ}に^{かみ}従^{かみ}う^{かみ}思^{かみ}い^{かみ}を^{かみ}与^{かみ}え^{かみ}て^{かみ}く^{かみ}だ^{かみ}さ^{かみ}つ^{かみ}て^{かみ}あ^{かみ}り^{かみ}が^{かみ}と^{かみ}う^{かみ}ご^{かみ}ざ^{かみ}い^{かみ}ま^{かみ}す。つ^{かみ}ぶ^{かみ}や^{かみ}か^{かみ}ず^{かみ}に^{かみ}従^{かみ}う^{かみ}こ^{かみ}と^{かみ}が^{かみ}で^{かみ}き^{かみ}ま^{かみ}す^{かみ}よ^{かみ}う^{かみ}に^{かみ}助^{かみ}け^{かみ}て^{かみ}く^{かみ}だ^{かみ}さ^{かみ}い。」

(沖縄ビクトリーチャーチ伝道師 安里美耶子)

1月24日

テーマ：目標を目指して

聖書箇所：ピリピ人への手紙 3章12節～16節

◆今日のみことば

キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をめざして一心に走っているのです。ピリピ人への手紙3章14節

◆メッセージ

マラソン大会に出たことはありますか。スタートしたら、ゴールを目指して走りますね。私たちイエスさまを信じる神の子どもは、イエスさまとともに歩み始めています。正しく歩み続けるためにゴールを確かめましょう。そのとき、次のことが大切です。

1. クリスマスはイエス・キリストを信じることによって、国籍を天に持つ者として地上の生涯をイエス・キリストと共に、天にある故郷を目指して歩み始めました。自分で信じてスタートした（とらえた）つもりでも、実はイエスさまが迷子のわたしを連れ戻して（とらえて）くださったのです。ですから、ゴールまで連れて行ってくださるイエスさまと離れてはなりません。

2. ゴールはイエスさまが決めました。自分で勝手にここがゴールだと決めつけないこと（すでに得たと）思い込まないことです。そう思い込んでしまうと、それ以上進めなくなります。途中でやめると失格となってしまいます。

3. 後ろを振り返って気にばかりしていると、ゴールが見えなくなります。後ろを見ているとスピードが落ちたり、転んだり、方向がずれてしまいます。だから、後ろのものを忘れ、前に向かって進みましょう。

4. もしも途中で、違ったことがあっても、明らかにしてくださる神さまに頼りましょう。おかしいと思ったら立ち止まって、今いるところ（すでに達しているところ）から再スタートしましょう。

5. ゴールから目を離さないで（目標を目指して一心に）、力を尽くします。自分のコースがあるのに他の人のコースを気にしていると、自分のコースからずれたり、離れたりしてしまいます。方向違いや関係ないことに心を奪われて、道を踏み外してしまうことのないように気をつけましょう。

6. 褒美はゴールすることでしかイエスさまからもらえません。神の栄冠は、「良くやった。よい忠実なしもべだ。」とほめてもらい、神さまの国のものをすべて受けることです。



◆お祈り

「イエスさま。終わりまでいつも一緒にいてゴールまで導き助けてください。」

(沖縄中央教会牧師 喜友名朝英)

1月25日

テーマ：私たちの国籍は天にあります

聖書箇所：ピリピ人への手紙 3章 17節～21節

◆今日のみことば

けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。ピリピ人への手紙 3章 20節

◆メッセージ

17節 パウロさんはギリシャのピリピ教会の信者たちに、自分の信仰に見ならうように言っています。私たちも友だちに、私の信仰に見ならってください、と言えたらいいですね。

18節 その頃あちこちの教会に、神さまから救いをいただくためには、律法（いましめ）を守り、割礼（からだの一部を切り取る儀式）を受けなければならない、と言う人たちがいました。それが「十字架の敵」と呼ばれている人たちです。聖書によれば、キリストは私たちの罪を背負って十字架にかかって死に、三日目に墓から死なない体で復活してくださったので、キリストを信じる人が神さまから救いをいただくのです。あなたはこのイエス・キリストを信じていますか。



19節 このキリストを信じないと、人間は自分中心（わがまま）になり、救われず、天国に行くことはできません。イエスさまを信じているといいながら、イエスさまのみことばに従わず、自分の思いのままに生きていると、信じていることにはなりません。自分が神のようになってしまうので、天国に行くことはできません。

20節 日本から外国に行き、そこに住み、外国語でキリストの福音を伝えている人たちを宣教師といいます。宣教師さんは外国に住んでいますが、その祖国や国籍は日本です。



同じように、キリストを信じる者は、地上に住んでいますが、その本当の祖国や国籍は天国なのです。だから、クリスチャンは天国人らしく、神さまと他の人を愛さなければなりません。そして、クリスチャンはキリストの再臨（もう一度来られること）の時を待ち望んでいます。

21節 キリストの再臨の時、キリストはクリスチャンの体を、死なない、罪のない強い体に変えてくださいます。

このように、イエスさまのことを信じる人の未来は素晴らしいものなのです。

◆お祈り

「素晴らしい再臨の時を待ち望みながら、神さまと他の人を愛して、神さまにお仕えしていけますように。」

（読谷聖書教会牧師 大瀧信也）

1月26日

テーマ：いつも主しゅにあって喜よろこびなさい

聖書箇所：ピリピ人への手紙びと てがみ しょう せつ 4章 4節

◆今日のみことば

いつも主しゅにあって喜よろこびなさい。もう一度言いいます。喜よろこびなさい。

ピリピ人への手紙びと てがみ しょう せつ 4章 4節

◆メッセージ

このみことばは、ローマという大都市だいとし ろうごく なかの牢獄らうごくの中なかにいるパウロから、ギリシャのピリピという町まちの教会きょうかいの人ひとたちに送おくりとどけられた手紙てがみの一節いっせつです。

パウロは悪いことわるをしてとらえられたのではありません。イエス・キリストがほんとういの生かみきている神かみさまであり、救すくい主ぬしであることを世界中せかいじゅうの人ひとに知らせたいといっしょうけんめいしになったのです。人ひとにとって一番大切いちばんたいせつなことを伝つたえようと、自分じぶんの命いのちの危きけん険けんをかえりみず、正ただしいことをしたのです。そして、あすにも処刑しよけいされるかもしれないという危きけん険けんの中なかにいました。それにもかかわらず、「自分じぶんは今いま、イエスさまによって喜よろこびでいっぱいだ。あなたがたもイエスさまによって喜よろこびにみたまされてください。」と語かたっているのです。

毎日まいにちくるしいことや、いやなことがいっぱいあるのに、「喜よろこびなさい」なんて無理むりと思おもいますか？「主しゅにあって」と書かいてあります。心配しんぱいなことや、悲かなしいことがない人ひとはいないでしょう。でも解決かいけつの道みちがあります。思おもいわずらわないうで、なんでも聞きいてくださる神かみさまに祈いのって、神かみさまに知しっていただくのです。神かみさまは、私わたしたちがお祈いのりしたことをぜんぶひきうけてくださいます。ほんとうたすに助たすかります。

また、怒いかりや人ひとを赦ゆるせない心こころが起おこったら、まづ一呼吸ひとこきゅうして、イエスさまの大きな愛あいを思おもうことです。イエスさまは、私わたしの罪つみも赦ゆるしてくださったお方かたです。ほかの人ひとたちのために、私わたしも少しだけ心こころを広ひろげることができます。このようにして、自分じぶんの心こころをイエスさまにつなげましょう。

そうしたらパウロのように、つらい中なかにいても喜よろこぶことができます。イエスさまにあって喜よろこぶことは、生いきる力ちからとなります。そしてまわりの人ひとにも良よい影えい響きやうをあたえます。

◆お祈り

「神かみさま、小ちいさな弱よわい私わたしにも、主しゅにあって喜よろこびつづける生せい活かつを導みちびいてください。苦くるしいことがあっても、うれいことがあっても、あなたにお話はなししてあなたと心こころがむすばれていたいです。」

(読谷聖書教会伝道師 大瀧雅子)



1月27日

テーマ：何も思い煩わないで

聖書箇所：ピリピ人への手紙 4章6節～7節

◆今日のみことば

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

ピリピ人への手紙 4章6節

◆メッセージ

人間が知っていること、できることには限界があります。宇宙にロケットを飛ばしたり、ロボットを作ることができます。人間は、いつ、何が起こるのかも、すべてわかるわけではありません。それで未来に対して不安や恐れを持つようになります。その不安や心配を解決するために、ある人は占い師のような人ところに行きます。ある人は保険などに加入してどんなことが起こるか分からない未来に備えます。でも不安や心配はなくなりません。人は毎日不安や心配の中で過ごす存在です。このように未来に対する不安や心配の中で過ごす人には喜びがありません。



何も思い煩わないことは、すべての心配を止めると言う意味です。これは今直面している問題に対して、心配したり慌てたりしないことを意味します。心配する代わりに、祈りと願いによって願い事を神さまに告白することです。祈りというのは心が神さまに向いていることを意味し、願いというのは何か必要を神さまに頼むことを意味します。すなわち祈りというのは、ただ自分の欲望が正しいかのように自分の願いだけを祈ることではなくて、神さまの御心に従って祈ることが大切です。



ですから感謝をもって祈りと願いをささげるといのは、神さまが正しくて良い結果を与えてくださることを信じ、神さまの御心に従って歩むことを意味します。そうすると、人のすべての考えにまさる神さまの平安が与えられるのです。そして神さまの平安は、すべての不安や心配から私たちの心と思いを守ってくださいます。

◆お祈り

「何があっても心配しないで、感謝をもって神さまに祈り、心に神さまの平安が与えられますように。」
(浦添ジョイ教会牧師 金炳九)

1月28日

テーマ：あなたに届いた福音

聖書箇所：コロサイ人への手紙 1章6節

◆今日のみことば

この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。

コロサイ人への手紙 1章6節

◆メッセージ

この「福音」とは、神さまからの「よい知らせ」です。よいニュースを聞くと私たちはうれしくなりますね。神さまからのよい知らせ（福音）は、私たちを本当の喜びで満たしてくれます。そしてただ「うれしい！」で終わらずに、聞いた人にある変化がおこることが書かれています。その変化とは何でしょうか。

それは、「実を結ぶ」ことです。みことばのとおり、神さまの喜ばれることをするようになることです。神さまのよい知らせ（福音）は、神の御子イエスさまを信じれば、救われることです。そのためにイエスさまは十字架の死によって罪の身代わりとなってくさいました。この御子イエスさまによってあらわされた神さまの愛が私たちの心に届くとき、私たちは、神さまのみこころに従い、神さまとまわりの人々を愛する人へと変えられていきます。そして神さまの愛にあふれた喜びの知らせを、他の人にも話したくなります。愛の人への変化はまわりの人たちの心を開き、福音に耳を傾



けるきっかけをつくります。そのようにして、福音はどんどん広がっていきました。神さまからのよい知らせ（福音）は、このように「広がり続けて」日本の私たちにも届きました。宣教師がやって来て、知らせてくれたのです。日本同盟基督教団も約130年前、そのような宣教師の宣教によって始まり、今では日本中に広がって約250教会になりました。私たちが実を結んで愛の人となり、まだ神さまのことを知らないお友だちに、よい知らせ（福音）を届けましょう。神さまは、このよい知らせを全世界の人たちに届けようとしておられます。まだ神さまのことを知らない国の人々により知らせ（福音）を届ける宣教師のために祈りましょう。【宣教師の名前をあげて、祈りましょう。】

◆お祈り

「私たちに届いた福音が実を結び、私たちをとおして福音が世界中の人に届けられますように。」
(国外宣教主事 池田いずみ)



1月29日

テーマ：キリストのうちに^{たから}ある宝

聖書箇所：コロサイ人への手紙^{びと} 2章3節^{てがみ} ^{しょう} 2章3節^{せつ}

◆今日のみことば

このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。

コロサイ人への手紙 2章3節

◆メッセージ

みんなにとって、宝物って何かな？

子どものころの僕にとっての宝物は、誕生日にお父さんとお母さんから買ってもらったものでした。小学校の低学年のころは、怪獣の人形を買ってもらいました。中学生になった時はステレオが宝物になって、毎日、大好きな音楽を聞いていました。でも、今の僕にはゴジラの人形も自転車もステレオも宝物ではありません。みんなこわれてしまったり、古くなって使えなくなりました。そして、そういった物は子どものころはとても大切だったのに、今ではまったく興味がなくなってしまうんです。こうして考えて見ると、宝物って古くなって使わなくなったり、いらなくなったりするものなんですね。でも、ひとつだけ変わらない宝物があるんです。それは、イエスさまとイエスさまのことが書いてある聖書です。

聖書の中には、イエスさまを信じれば、子どもも大人もだれでも、どこの国の人でも救われると書いてあります。この宝物だけはいつもでも、どんなときでも変わりません。

聖書が教えていることの中心はとても簡単です。それは、イエス・キリストを信じて救われることです。イエスさまが人間の罪の身代わりになって、十字架の上で死んだけれど、

よみがえって今も生きている神さまだということです。このイエスさまを信じる時に、だれでも、どんな人でも神さまから離れている罪がゆるされて、天国に行けると聖書ははっきり教えています。神さまの子どもになって、神の家族の一人として生きることを教えています。

あなたはこの宝物を持っていますか？あなたにも宝物があると^{おも}うけれど、それはいつか宝物ではなくなる時がきます。でも、聖書を読んでイエスさまを信じることの宝物は、いつまでも変わりません。だから、あなたもこの宝物を、ぜひ、受け取ってください。そして、毎日聖書を読んで、この宝物を持っていることを感謝できるようになりたいですね。

◆お祈り

「神さま、イエスさまを信じることによって与えられている宝物を感謝します。聖書を読んで、この宝物のすばらしさをもっと良く分かるようにしてください。」

(バンクーバー日系人福音教会牧師 福迫徹也)



1月30日

テーマ：バプテスマ

聖書箇所：コロサイ人への手紙 2章12節

◆今日のみことば

あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストともによみがえらされたのです。

コロサイ人への手紙 2章12節

◆メッセージ

あなたがお母さんのおなかの中にいたとき、羊水っていうお水の中でぷかぷか浮いていました。そのお水に守られて、お母さんのおなかの中で大きくなります。お外に出てお父さんとお母さんと会える時、そのお水と一緒に、お母さんのおなかの中から出てきます。お水から出てきたあなたは初めてお父さんとお母さんの顔を見ることができます。その家族の中であなたはたくさんのお話を聞いて大きくなっていくのです。

バプテスマって、あなたが生まれてきたときとよく似ています。自分のことばかり考えていた自分。その罪を赦してくれるために、イエスさまが十字架にかかってくれました。だからイエスさまが自分のために死んでくれたんだって信じる時、罪いっぱいの自分は一度お水の中に入っていなくなります。でもそのすぐあと、イエスさまが日曜日の朝、よみがえられたのと同じように、新しい自分がお水の中から生まれてくるのです。新しい自分がお水の中から生まれたとき、あなたの父なる神さま、あなたの母なる教会がよくわかるようになっていきます。神さまと教会の中で、あなたはどんどん成長していくことができるのです。バプテスマ(洗礼)は、あなたが神さまの子どもとして生まれた喜びを体験していく大切なスタートなのです。



イエスさまを信じているなら、イエスさまが与えてくださったバプテスマを受けましょう。バプテスマを受けることを、お父さんやお母さん、牧師先生と話してみましよう。

イエスさまを信じているなら、イエスさまが与えてくださったバプテスマを受けましょう。バプテスマを受けることを、お父さんやお母さん、牧師先生と話してみましよう。

◆お祈り

「イエスさまがわたしの罪のために死んでくれたことを信じるように助けてください。そしてバプテスマによって新しく生まれて、もっともっと神さまと教会の中で成長できるように助けてください。」(バンクーバー日系人福音教会牧師 福迫真里)

1月31日

テーマ：何を^{なに}するにしても、主^{しゅ}に対して^{たい}するように

聖書箇所：コロサイ人への手紙 3章23節

◆今日のみことば

何を^{なに}するにも、人^{ひと}に対して^{たい}ではなく、主^{しゅ}に対して^{たい}するように、心^{こころ}からしなさい。

コロサイ人への手紙 3章23節

◆メッセージ

主^{しゅ}というのは、イエスさまのことです。だからこのみことばは、「何を^{なに}するにも、イエスさま^{たい}に対して^{たい}するようにしなさい。」ということです。イエスさまにどんなふうにお仕えしたいですか。私の身代わりになってくださった救い主^{すくぬし}イエスさまに悪い^{わる}ことはできませんね。イエスさまが喜^{よろこ}ぶことをしたいですね。

あなたが従^{したが}わなければならない人^{ひと}、お父^{とう}さんやお母^{かあ}さんや先生^{せんせい}は、神^{かみ}さまがあなたのために教^{おし}え導^{みちび}く存在^{そんざい}として立^たててくださいました。だから、お父^{とう}さんやお母^{かあ}さんが言^いうことも、イエスさまが言^いうこととして聞^きいてね、と^い言^いっています。それはイエスさまが喜^{よろこ}ぶことだからです。

どうすれば、イエスさまが喜^{よろこ}ぶことを行^{おこな}うことができるでしょうか。まずは、口^{くち}からでる悪い^{わる}ことばは捨^すててしましましょう。悪い^{わる}ことを考^{かんが}える心^{こころ}を神^{かみ}さまにごめん^いなさいと言^いえるようにイエスさまに助^{たす}けてもらいましょう。そうすればイエスさまが心^{こころ}の中^{なか}にきてくださいます。自分^{じぶん}ではできないことも、イエスさまから力^{ちから}

をもらえばできます。それは、とっても深い愛^{ふかあい}の心^{こころ}です。だれかに対して優^{たい}しくなることもできます。ほかの人^{ひと}に対していやだなあと思^{おも}うこともゆるすことができます。できないときは、またイエスさまにお祈^{いの}りしましょう。

そして、イエスさまにするように、喜^{よろこ}んでお父^{とう}さんやお母^{かあ}さんの言^いうことを聞^ききましょう。イエスさまに助^{たす}けてもらって、イエスさまが喜^{よろこ}ぶことをしていきましょう。



◆お祈り

「神^{かみ}さま。イエスさまが喜^{よろこ}ぶことができるようにしてください。」

(名護聖書教会伝道師 喜友名恵嗣)